

# くまもと経済

表紙の人

**島原 俊幸** 本田技研工業熊本製作所長  
開発から量産までの一貫体制を構築



特集

## 地場有力企業決算と役員人事 (前編)

## クルーズ船、16年度は40件の寄港オファー

## 中国需要拡大で木材輸出額倍増 農林水産物輸出

熊本港・八代港

## いざ熊本創生、県政支えるニューフェイス 新県議に聞く(後編)

【INTERVIEW】

上田 康弘 ソニーセミコンダクタ社長 / 松並 憲示 オムロン リレーアンドデバイス社長 / 手嶋 一弘 九州労働金庫熊本県本部長

川口 雄一郎 明和グループ会長 と 山本 恵一郎 フォレストック協会 会長 / 坂口 洋亮 坂口建設 取締役社長室長 / 佐藤 栄磨 サトウロジック 社長

広告企画 暑中御見舞 誌上名刺交歓

# 熊本のニンジンが日本一に！ 通信販売で全国へ



まゆみ農園

▲▶仕分け作業の様子。色や形、サイズなどを1本1本チェックしている。若い作業員も多く活気がある



▲冷蔵庫の中。マイナス0.5度で出荷まで保管している



▲まゆみ農園のニンジン畑。16haで650tを生産している

菊陽町のまゆみ農園(真弓一保代表の「たつやのにんじん」が今年3月、「農家・オブザイヤー2015」で最高金賞に選ばれた。今回の受賞で2年連続となる。全国1000軒以上の農家から選出された。

これは有機野菜・無添加食品などの通信販売を行うオイシックス株式会社(東京都品川区)が毎年主催、今年で9回目。東証マザーズ上場の同社は食品の通信販売などで年商145億円を売り上げる。

まゆみ農園では販路拡大のため、通信販売をはじめ、徐々に売り上げを伸ばし昨年の受賞で3割の売上増。今年の受賞以降は更に2倍に伸びている。「地元の菊陽ニンジンのブランド向上になれば」と真弓代表は語る。

特殊なクローラートラクターを使い、従来であれば15cm程耕すところを畑を50cm耕し、排水を向上させ、また土を柔らかくすることで形の良いニンジンが出来るように工夫している。また緑肥作物をすき込むことで窒素を増やすなど、土壌の改良を行っている。

品質管理にもこだわりがあり、収穫したばかりの泥ニンジンをすぐに冷蔵庫に入れて芯まで冷やした後、800倍の塩水で洗浄し、マイナス0.5度の冷蔵庫で補完することで新選な状態で全国に発送できる。

同農園では6次産業化への取り組みも考えており、「熊本の農産物が全国へ広げたい」と意欲を見せる。

(編集部・山田桂士)